

大瀧工場の使用電力を 100%再生可能エネルギーへ転換 ～年間約 4,000 トン（対目標 60%相当）の CO₂ を削減～

第一工業製薬株式会社（本社：京都市南区、代表取締役社長：山路直貴）は、当社の主力拠点である大瀧工場（新潟県上越市）で、電力使用に伴う CO₂ 排出量ゼロを実現するため、大阪ガス株式会社（所在地：大阪市中央区）の 100%子会社である Daigas エナジー株式会社（所在地：大阪市中央区、以下、Daigas エナジー）とオフサイト PPA^{*1}「D-Green EX」契約および再生可能エネルギー（以下、再エネ）電力メニュー「D-Green」^{*2} 契約を締結しました。これにより、年間約 4,000 トンの CO₂ 排出量削減効果が見込まれます。

中期経営計画「SMART 2030」では、経営の重要キーワードとして「サステナビリティ」を掲げています。社会課題対応の一環として、「2050 年カーボンニュートラル」をマテリアリティのひとつに定め、環境長期ビジョンでは「2030 年度温室効果ガス（CO₂）排出量 30%削減（2013 年度比）」を目標としています。昨年度からはサステナビリティ委員会を刷新し、さらに活動を加速しています。

また、GX（グリーントランスフォーメーション）戦略の主要施策として、生産設備の効率化やプロセス改善だけでなく、再エネの導入も推進してきました。大瀧工場における使用電力の CO₂ 排出量削減は、グループ全体の脱炭素化を牽引する象徴的な取り組みです。

本契約では、遠隔地の太陽光発電所から電力を供給する「オフサイト PPA」と、再エネ電力メニューを組み合わせることで、安定的な再エネの調達を可能にしました。今回の導入により、2030 年度までに必要な削減量に対して、60%相当の削減を実現することになります。

当社は、今後も GX 戦略に基づき再エネ比率を段階的に高め、持続可能な社会の実現と企業価値の向上をめざします。

- 実施拠点：第一工業製薬株式会社 大瀧工場
- 削減効果：CO₂ 排出量 約 4,000 トン/年（見込み）
※目標削減量に対し 60%相当（見込み）
- 調達手法：オフサイト PPA 「D-Green EX」
+ 再エネ電力メニュー 「D-Green」



<第一工業製薬 大瀧工場>

※1 PPA（Power Purchase Agreement）：発電事業者等と締結する電力購入契約。オフサイト PPA は、需要地から離れた発電所で発電した電力を、小売電気事業者等を介して調達する契約方式。

※2 「D-Green」は、火力や原子力等を含まない再エネ発電所にて発電された電力に、非化石証書を用いることで、再エネ 100%の電力を供給する電力メニュー。

【本リリースについてのお問い合わせ先】

第一工業製薬株式会社 管理本部 戦略統括部 広報 IR 部
TEL. 075-276-3027 E-mail: d-kouhou@dks-web.co.jp
〒601-8002 京都市南区東九条上殿田町 48 番地 2